二条中学校便り

第　1　号
平成１９年４月６日
京都市立二条中学校

桜満開の下で～平成19年度　新しいスタートを！

少し早めの年度の始まりを祝福するかのように満開の桜が咲き誇っています。二条中のシンボルであり、**京都市立学校の銘木百選にも選ばれたカナリーヤシ**はどっしりと根を張り、校門をくぐる生徒を見つめています。さあ心地よい春の風に深呼吸をしてみましょう。

二条中学校の新しい年度が始まります。教職員一同たくさんの出会いの期待に胸をふくらませています。一人ひとりの生徒達、学校長を中心とした教職員、そして各ご家庭と地域の皆様がた。それぞれの立場から同じ方向を見据えて、充実した一日一日を積み重ねていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

二条中学校の教育の学校教育目標は次のとおりです。

自らの目標に向かって相互に主体的な努力のできる生徒の育成

めざす生徒像

＊基礎・基本の学力と学習の方法を修得できる生徒
＊「共生」社会の実現を目指し、実践する生徒
＊自己の健康を管理し、体力の増進に努める生徒

新しくお迎えする人の教職員のみなさん！　どうぞよろしくお願いいたします。

高倉誠先生（国語）　梅逕中学校から
渡部俊美先生（美術）京都御池中学校から
大賀玲子先生（保健体育）下鴨中学校から
服部啓子先生（音楽）雲ヶ畑中学校から
伊藤一成先生（音楽）

樋口富士雄先生（社会）　九条中学校から
佐々木ひとみ先生（技術家庭）大原中学校から
佐藤あずみ先生（英語）樫原中学校から
石坂知夏先生（美術）醍醐中学校から
から

３年生―クラス増！１５日から沖縄への修学旅行！

今年度の３年生は、昨年度まで通常の学級は２クラスだったのですが、京都市が中学３年生を30人学級にしたことにより、３クラス編成でのスタートです。よりきめ細かく進路への自己実現を目指します。そして修学旅行への秒読みも始まりました。年度のスタートから張り切ってフル回転！

離任される８名のかたがた。ありがとうございました！ご健康とご多幸をお祈りいたします。

土田浩先生（教頭）　樫原中学校へ　　清水和子先生（国語）桃山中学校へ
中村美智子先生（国語）北総合支援学校へ　　村上武史先生（社会）加茂川中学校へ
松田恵美先生（美術）西院中学校へ　　村川悦子先生（技術家庭）　京都御池中学校へ
小泉未来先生（音楽）春日丘中学校へ　　太田景子先生（保健体育）樫原中学校へ

109人の新1年生！ご入学おめでとう

4月5日に109名の新入生が入学してきました。ご入学おめでとうございます。二条中学校の在校生・教職員一同はみなさんを大歓迎します。

子ども時代から大人への階段を一歩一歩登り始めるこの３年間。自分とは違うたくさんの仲間と出会い、ともに活動することで大きく成長できることでしょう。

前期始業式　学校長の話から

３つのリフレッシュプランを！

19年度当初のリフレッシュプランを提案してみようと思います。

まず一つめは、「学力の向上」にむけて、みんなが「勉強家」になってほしいということです。

明治時代に、土木工学の最初の日本人教授になった古市公威（ふるいちこうい）という人がおられました。古市公威さんは、明治19年に32才で工科大学（現・東京大学工学部）の初代学長になった人で、土木技術者は「将に将たる人」（軍隊でいう全軍を率いる大将としての度量や能力を持つ人）でなければならない、という有名な金言（金のように価値ある言葉）を作った人です。この古市公威さんがフランスに5年間留学したとき、ものすごい勉強をしたそうです。そのノートが今でも東大の土木工学科に残っているそうですが、その時の下宿のおばさんが、「あなた、少し休まないと身体をこわしますよ」と言ったら、「僕が、一日休むと、日本は1日遅れます。」と答えたそうです。

この言葉の中に、日本が近代国家として歩み出したころの勃興（ぼっこう）期（急に勢いよく栄える時期）のエネルギーとえらさがうかがえます。みなさんも「次の世代の日本の国造り」に参画する人材として、自らの「学力の向上」に向けて、「勉強家」たりえてください。

二つめは、新たな「研究発表」にとりくむということです。本校は京都市教育委員会指定の「みやこ学校創世事業（みやこステップアップスクール）」の最終年次の研究報告会を昨年の11月1日に無事終え、内外の高い評価を得ることが出来ました。その研究成果は「私の十八番（おはこ）授業」にも生かされ、3人の先生方が最優秀賞・優秀賞・審査員特別賞を受賞される結果に結びつきました。

これら、先生方の実践研究は、一見みなさんがたの学習活動とは無縁に見えますが、大学や企業の研究活動とは異なり、皆さん方をパートナーにしての共同研究ですから、みなさんがたの密接につながるものであり、研究のキーパーソンはむしろみなさんがたであるといっても過言ではありません。本年度も新たな研究指定を京都市教育委員会から受け、「みやこ学校創生事業（みやこパイロット・スクール）」の研究をみなさんがたとともに取り組みたいと思います。

最後の三つ目は、「いじめ根絶」にむけた「心の通う仲間づくり」に取り組んでほしいということです。

昨年度、校内でおこった「いじめ問題」をきっかけに、本校の生徒会は全校あげての「いじめ根絶」にむけた生徒会活動を展開しました。「いじめ問題」について、ある学識経験者がいうように、現在の子ども達は「加害者がいつ被害者に替わるかもしれない複雑な社会的条件の中に生きている」のが現実の有様です。二条中学校の先生方はこの「いじめ問題」から、単に被害者を守ること、加害者を罰すること、傍観者を非難することだけでは問題が完全に解決しないことを知りました。そんなときに、本校の生徒会は被害者・加害者・傍観者という単純な図式と、人間関係で「いじめ」をとらえるのではなく、トータルな人間関係の視野の中で、全ての生徒が関わる方法を打ち立てました。それが、「心の通う仲間づくり」でした。今年度は、この方法のさらなる現実に向けて、一層の実践をおしすすめてください。

生徒による手話通訳～上達のはやさ！これぞ若さなり～

年度末・年度当初には数多くの式や集会が行われます。今年度の４組には３学年あわせて 23 人という多くの生徒がいますが、彼らは集会の時は前方に集まり、聴覚だけでなくスクリーンに映される文字情報と、それにあわせた手話通訳など視覚情報も一緒にして音声情報を得ています。

ここ何回かの式や集会では、生徒の代表が話をする時には、同じく生徒の代表の生徒会本部の３人と、手話部の３人が担当しましたが、さすが若い中学生、彼らの手話修得のはやさとなめらかさには舌を巻きます。通訳後の南校舎では、４組の生徒が彼らに口々に「ありがとう」「よく伝わった」と声をかけている場面も目にしました。